デーリー東北新聞社提供

デーリー東北
2026年（令和8年）10月8日（木曜日）（19）

八工大コンビ気合十分

バレー成年男子 菊池と千田

昨年5位、目指すは「優勝」

青森で煌めけ 国スポ注目選手

40年ぶりの5位入賞―。昨年の滋賀国スポで躍動したバレーボール成年男子の青森代表。チームに欠かせない戦力として今年も代表に選ばれた八戸工業大バレーボール部の菊池建（4年）＝岩手・水沢工高出＝と、千田莉夢（2年）＝宮城・東北高出＝は「地元の人が熱くなるプレー、盛り上がるプレーを見せたい」と気合十分だ。目指すは「優勝」。昨年つかんだ自信を胸に全国の強豪にアタックする。（中山瑞希）



バレーボール成年男子に出場する八戸工業大バレーボール部の菊池建（左）と千田莉夢＝9月、八戸市

成年男子の青森は、20年以上の空白期間を経て2023年の鹿児島国体から再び参戦。あおもり国スポに向け、チーム強化を続ける中、結果を出したのが昨年の滋賀国スポだった。1回戦に勝利し、続く準々決勝では敗れたものの、5、7位決定戦を制して5位入賞。久しぶりに青森県のバレーボール界に朗報をもたらした。

高さで見劣りする分、堅実なレシーブと速攻を強みとする青森。アウトサイドヒッターの菊池はチームに勢いをもたらすピンチサーバーとして、千田はディグ（強打レシーブ）のうまいリベロとして、重要なポジションを担う。

2人は大学のリーグ戦を戦いながら、代表メンバーが集まる東京に足を運び、チーム練習を重ねてきた。東京遠征は昨年より増えたというが「体力的には大丈夫。若さで乗り切った」と頼もしく笑う。

心強い後ろ盾もある。代表には八工大OBの種市耕己と武田来夢（共にブランデュー弘前）も名を連ねる。千田は「先輩たちと一緒にプレーできるのがうれしい」と相好を崩す。

一方、チームには10歳以上、年が上のベテラン選手もおり、大学生の2人には当初やりづらさがあったと打ち明ける。だが一緒に食事をし、練習を重ねていくうちに世代間の壁はなくなった。顔触れもほぼ毎年変わらず、チームの完成度は着実に高まっている。

青森の看板を背負い、昨年以上の成績を目指す八工大コンビ。菊池は「温かく迎えてくれる感じがあり、応援のおかげでサーブを打てている」と地元の励ましに感謝。千田は「青森出身でなくても選んでもらっているからには、しっかり勝ちたい」と強い決意をにじませる。

初戦となる準々決勝（12日）の相手は大阪。今年7月の西日本インカレ覇者・近畿大のメンバーで構成する難敵で、いきなり正念場を迎える。八工大の若いコンビには、厳しい局面を打開する力に期待がかかる。

※随時掲載

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。